



大鳥大社



花摘祭

当社では古来より花の散る春の時期に花摘祭神事と称して渡御祭（御祭神が神輿・御鳳輦に乗り氏地を廻る）を御齋行申し上げております。

祭の意義は、桜の花が散る時期には古来疫病が流行し厄災を招くとされ、平安時代以降は国家的祭祀として全国の神社にて鎮花祭（はなはずめのまつり）が齋行されました。

当社の花摘祭もその一環で行われたもので、野に咲く花を摘んで神前にお供えし花の精霊を鎮めて疫病・災厄を祓う祭であります。

現在の花摘祭は、花摘女、仕丁、稚児等が着装し、列を整え氏地より当社へ宮入し、花摘神事後、宮司以下奉仕者と共に太鼓、神輿、花車等を車両に積み、大鳥浜神社・浜寺公園

大鳥北濱神社へと神幸し、各所にて神事を齋行後、当社に還御致しています。

花摘女をはじめ、仕丁、稚児等は、氏子地域の幼稚園や小中学校の生徒らにご奉仕いただき例年神事を継続して参りました。

この度、この歴史ある花摘祭をより盛大に御齋行すべく、地域有志の方々が相図り初の花摘女の公募を実施する運びと成りました。

